



舞踏青龍會 2018アトリエ連続公演
butô seiryukai

肉体の四季

― 舞踏曼荼羅 ―

終演後の宴はジャンルを横断した
多士済々のサロン(梁山泊)となる。

年年歳歳花相似たり歳歳年年人同じからず。
滑稽なように悲しく、切ないように痛快な、
普通のように普通でない、
そんな不思議な時と場が四季の巡りと共に花開く。

写真:鶴留一彦

日時

- | | |
|-----------------------------|-----------|
| 第1章 地の塩 | 2月25日(日) |
| 第2章 水の巖 <small>いわお</small> | 5月27日(日) |
| 第3章 火の滝 | 8月26日(日) |
| 第4章 風の鬣 <small>たてがみ</small> | 11月25日(日) |

◎各回共15時開演(14時半開場)
完全予約制(定員30名)
会費 一般二千五百円/学生二千円
終演後、小宴有り。

予約・問合せ

090-5083-9055(原田)
n_1949.1.1@docomo.ne.jp

協力

黒岩俊哉・黒岩文子・出田浩志・鶴留一彦・堤加代子・高杉直子
アートスペース入魂・河合文化教育研究所・身体表現教育研究会

Butoh is everything

会場

舞踏青龍會 アトリエ
(福岡県小郡市二森 1632-11)



【会場アクセス】

西鉄大牟田線天神発花畑行き急行13:38又は14:08。
小郡駅で普通に乗換え1つ目、西鉄端間駅下車
徒歩約10分。宝満川に架かる満天橋を渡って、右手
道路を直進。二森交差点を渡り、セブンイレブンの
並び3軒目。美容室隣の奥。青い屋根の家。



原田伸雄 Nobuo Harada <福岡>

大野一雄、笠井敏の即興舞踏の系譜を継ぐ。天使館から独立後、1980年に東京で舞踏芸術会を結成。現在、福岡を拠点に女装せる益荒男舞踏家として芸術と反芸術の境界線上を滑稽かつシリアスに往還中。



松岡智恵 Chie Matsuoka <福岡>

大学在学中に舞踏を知る。後に青龍會に出会う。それから付かず離れ(られ)ず、今に至る。確かに存在する、そこに充満するものをつかみたい。



シンキミコ Kimiko Shin <福岡>

カラダノ奥底ヲ流レル地下水脈ヲ探ル。降りテ行ク。浸ス。潜ル。流レノ行キ先ハ知ラナイママニ。畏レヲ持ッテ。ケレド怯エナイデ。



峰尾かおり Kaori Mineo <福岡>

演劇活動を経て、1999年に舞踏と出会い、青龍會にて舞踏を学ぶ。現在、舞踏、演劇、両方で活動中。



白川麻衣子 Maiko Shirakawa <熊本>

ちぎれる程狂おしく、内から外から押し寄せ渦巻く憂おしいものたち。瞬きの数だけ巡り廻る。光は決して救いで無く、闇に安らぐときもある。連続する喜びと悲しみの刻々に私は私のかたちを求めて身を投げる。



金丸謙一郎 Kenitiro Kanamaru <長崎>

詩人・革命家である谷川雁の在野の研究者の端くれ。彼の発案による人体表現(テーマ活動・人体交響劇)の源流をたどって舞踏に出会う。彼の目指した集団創造、幼児の肌の上の革命である神話ごっこを、中年の衰えた身体に如何に蘊蓄せしめるか。



井上みちる Michiru Inoue <福岡>

1999年舞踏に出逢い初舞台を踏む。独舞「とどのまつり」にて舞踊批評家協会新人賞受賞。東京で専らソロ活動を継続し自主企画を軸にダンス白州、ダンスが見たい!等参加。'12年渡米、NY即興の現場で舞りを展開。近年、福岡のアトリエに通う。



ツジナツコ Natsuko Tuji <福岡>

削って削って削ぎ落として



よしお Yoshio <福岡>

夢があまりに優しくて/ 薔に包まれた蚕のように、/ 暴力的な現実と破壊を願った。/ ただすこし諦めただけ。/ 誰も聞いてないなんていわないで、どうか歌ってあなたの声で。



田中敦 Atsushi Tanaka <福岡>

棍々著



方丹敏 Fang Danmin <北京>

これまでに桂勘、原田伸雄などに師事し舞踏を学ぶ。身体と土地の伝統・文化、感情、記憶などとの関係を探る。2014年に雲南の農村で「身体の記憶」プロジェクトを実施。2015年以降は北京、高雄、福岡などでパフォーマンスに出演。2016年正式に原田伸雄の門下生となり、同年に北京で青蓮舞踏団を結成。2017年に原田伸雄(北京)四季舞踏ワークショップおよびパフォーマンスを企画。



胡高陽 Hu Gao Yang <北京>

メディアに従事する舞踏ダンサー。2014年から「舞踏」を始めると同時に身体への模索を開始。これまでに桂勘、原田伸雄などに師事し舞踏を学ぶ。「舞踏白狐系」のダンサーとして中国各地のパフォーマンスに参加。2017年に福岡「肉体の四季」に出演。同年に「青蓮舞踏」の設立者として発起人の方丹敏と共に原田伸雄(北京)四季舞踏ワークショップおよびパフォーマンスを企画。



山下陽子 Youko Yamashita <北京>

北京の青蓮舞踏団メンバーとして2017年原田伸雄(北京)四季舞踏ワークショップおよびパフォーマンスに参加。舞踏を通じて、身体の内面に眠る様々な記憶とその可能性を呼び起こしたい。北京在住。



松田美和子 Miwako Matsuda <福岡>

3歳より日本舞踊を学び、後年舞踏に出会う。The Physical Poetsに参加、日常の音から露出するものを紡いで舞踏にしたい。2016年舞踏芸術会メンバーとなる。



たかはし路子 (Kみかる mico) Michiko Takahashi <ニューヨーク>

ニューヨークでthe no neck blouse band というバンド等で音楽と身体表現を模索。東京で設立された時の青龍會元メンバー。



ヨルカ Yoruka <福岡>

舞踏の作り出すどこまでも奇妙で不可思議な異空間への好奇心がある。。生暖かい、生きてると死んでいるの狭間に飛びこんでみる。



高橋瑞乃 Mitsuno Takahashi <福岡>

99年、舞踏芸術会の原田伸雄に出会い、師事。同年、大耳ネットワークに参加。自然農を志し、入山。身体と内面を見つめる作業に入り、今日に至る。00年「舞踏の新しい風」、05年「響」、10年「森と燈籠」他。09年愛児を喪う。6児の母。



Shone Underson <イギリス>

舞踏に、既成の芸術のみならず民族や国家の枠を超えて行く可能性を感じ、論文執筆の合間を縫って稽古に参加している。現在、九州大学大学院に在籍中。社会学専攻。



桂勘 Kan Katsura <京都>

フリーランスofficePARADXX主宰 京都生まれ。1979年に舞踏結社「白虎社」設立に参画、81年よりソロ活動。86年マルチナショナル舞踏グループ「桂勘&サルタンバンク」結成、インドネシア、タイ、シンガポールでの共同制作プロジェクトを国際交流基金の助成のもとに2001年までに数多く行う。肉体と風土の有り様を探りながら、舞踏が残した遺産としての技術の探求を共有したい。



杜昱枋 Du Yufang <北京>

2006年北京ダンスアカデミー卒業。10年「桂勘」に師事。12年第一回現代舞踊フォーラム・WS Fes北京を経て、中国大陸初の舞踊研究会「元初舞踏グループ」を結成。14年第一回北京舞踏Fes「游园惊梦」を開催、舞踏カンパニー「舞踏白狐系」を立ち上げる。



高砂 BUTOH 協同組合 takasago butoh kyoudoukumiai <兵庫>

「今・ここ」のほんとの深みめざして
高砂 BUTOH 協同組合メンバー、きよこ、マサト、とき、ひろみ、あやこ、一同修練を重ねています。



マサト Masato <兵庫>

高砂BUTOH協同組合設立メンバー。エジンバラフェス等に参加。日常の労働環境のなかで社会的自分と踊る自分の乖離に焦点をあて、その回復を期して地域密着型の舞踏を探索する。



大村憲子 Noriko Oomura <高知>

1973年神戸源次郎に師事。1991年高知市に「ダンスクリーム」設立。2014年、舞踏に出会う。2017年、舞踏士佐派を立ち上げる。



東北舞踏「三角標」IGU Touhokubutoh「Migakushi」IGU <岩手>

「無限の重なりの中で何をしてもいいんだ、魂を失わなければ」
「すべて自由だ、命との係わりにおいては、すべて自由だ」肉体があるから表現できる、肉体を越えて表現できる。本来の自由な魂、命を取り戻していく道、それが舞踏。



非風 Hifuu <京都>

非風は2016年に袋坂ヤスオ、たなかたかしにより結成された舞踏団。ケツ能は袋坂が創始した表現様式であり、作品に「月光姫」、「道小町」、「三番叟」、「魁」などがある。



由良部正美 Masami Yurabe <京都>

1978年より、懐疑と停滞を経ながらも舞踏をライフワークとし、舞踏の精髄を探索している。京都在住、スペースALS-D代表。



稲垣美輪子 Miwako Inagaki <京都>

2013年より、由良部正美氏のもとで学ぶ。訳もわからぬまま、夢中で通い続ける。カラダって、踊るって何なのだろう、と自問自答する日々。



マツモトキヨカズ Kiyokazu Matsumoto <京都>

舞踏家。2016年、孔雀、山本雅史と共にユニットAYU(東風)を結成。京都市上京区のSocial Kitchenで終末ならぬ週末酒場(食堂)を営業。時々、包丁芸術を行う。



孔雀 Kujiyaku <兵庫>

言葉師・化粧師・女形にして若衆形。AYUヴォイスワーク担当。歴史、或いは蘭麝の声音を用いて光彩陸離たる朗読世界を展開する。



山本雅史 Masafumi Yamamoto <京都>

1968年大阪生まれ。自称働く表現家。某物流企業にて管理職として勤務をこなす中、全国各地のイベントに出展。ソロでの演奏活動も行い、夏羽衣、江州首領の 舞にてベース担当で機に上る。趣味は海外(主に東南アジア)に行き、CDや楽器を買い漁り、うまい飯を食うこと。



伴戸千雅子 Chikako bando <大阪>

振付家・ダンサー。演劇、バリ舞踏、舞踏を学び、1989-2011年ダンスグループ「花嵐」で活動。近年は、ミュージシャンやパフォーマーと即興セッションや作品づくりを行う。2015年、子育て、性、介護をテーマにした舞作「おしもはん」を企画・演出。



川口結実子 Yumiko Kawaguchi <京都>

毛細血管のように四方八方に広がるこの世界。その中で紡いでいく一本のか細い糸。切れないように切れないように…。



藤條虫丸 Mushimaru Fujieda <鹿児島>

'72年、初舞台。「劇団日本維新派(現・維新派)」等を経て、'89年「虫丸独演」開始。天然肉体詩人を名乗り、国内外での公演、ワークショップ多数。屋久島在住。The Physical Poets 主宰



情野千里 Chisato Seino <兵庫>

川柳作家・舞踏家 1993年に「川柳舎・みみひめきゅん」を立ち上げ、代表として川柳パフォーマンス(=川柳舞踏)の制作を行う。居住する姫路地方(兵庫県)を中心に国内外で活動。師系:桂勘



今井田歌 Touta Imai <高知>

1948年 兵庫県相生市に生まれる。1971年 旅行先のカナダで移民、なぜか日本の音楽に興味を持ち、帰国後京都にて地歌三味線を習得、以後ゴゼウ、津軽三味線、各地の古謡をもとに、音楽活動。1978年 アメリカ、カナダの大学を巡回公演。1997年 CD「青いくに」2013年メルボルンにてCD「Sakura」を発表。現在は高知県在住。



木村由 Yu Kimura <東京>

幼少の頃、団地の集会所でモダンダンスと会い、踊りの世界に足を踏み入れて以来、35年以上の月日を踊りと共に過ごしている。「ちゅぶ台ダンス」を毎年行っている。